

ISO 認証機関

# ASR エイエスアール 通信

<https://www.armsr.co.jp/>

2025September  
VOL.47



■ エイエスアールのお客様紹介

株式会社下由ネジ製作所様

p.2-3

■ ISO9001規格要求事項の勘違い Vol.3

p.4-5

■ ASR博士の環境レポート

企業と環境法令

p.6

■ 企業向けISO関連教育サービス

p.7

■ 組織様向け情報

p.8

# 株式会社下由ネジ製作所様 (愛知県名古屋市)

今回は、名古屋市の株式会社下由ネジ製作所様をご紹介します。  
創業から60年にわたりねじ転造技術を継承し、技術力と品質の高  
さでお客様の信頼を得られている組織様です。  
2024年にISO9001を取得されました。

代表取締役の稲熊 保 様にお話を伺いました。



代表取締役社長  
稲熊 保 様

―御社の概要について、お話しいただけますか。

弊社は、自動車・航空機・造船・医療など、さまざまな分野で使用されているねじの加工を行っております。主に「転造加工」と呼ばれる技術を用いて、お客様のご要望に応じたねじを製造・納品しています。

もともとは1965年に初代が個人事業としてスタートしましたが、その後法人化し、60年にわたってねじ加工技術を受け継いできました。現在は3代目として私が事業を継承しています。

―転造加工というのは、どのような技術なのでしょう  
か。

転造加工とは、ねじの素材に強い力を加えて塑性変形させ、ねじ山を形成する加工方法です。素材を削って成形しないので素材自体の繊維（ファイバーフロー）を傷つけない製法になり切削ネジと比較して、ひっぱり強度が約1.5倍と、生産性に優れた技術です。また、加工時に削りかすなどのゴミが出ないため、環境にも優しいと言われています。

―お客様のご要望に応じて、ねじの形状なども異なる  
のですよね。

はい。発注内容によって形状も素材もまったく異なるものになります。そのようなご注文に対して、1件1件手作業で対応しています。多いときには、1日で16,000個ほどのねじを製造することもあります。もちろん、力のかけ方や形状などによっては小ロットでの対応しかできない場合もありますが、それぞれ個別にカスタマイズして対応しています。

―取引先のお客様は、やはり名古屋周辺が中心ですか。

もともとは愛知県内のお客様が中心でしたが、最近は全国からお問い合わせをいただくようになりました。特別に営業活動をしているわけではなく、既存のお客様からの紹介や、検索などからホームページやInstagramを見てご連絡いただくケースが多いです。

―ISOについても伺わせてください。2024年にISO9001を取得されて、ちょうど1年が経ちましたね。そもそも取得のきっかけは何だったのでしょうか。

多くのお客様からのご要望を伺う中で、製品検査や不良品の追跡にもっと注力する必要があると感じ、会社として取り組むためにISOを取得することにしました。

取得にあたってはゼロから勉強を始め、コンサルティングなども入れずに、自力で仕組みづくりを行いました。



―導入時にご苦労された点はありましたか。

これまでは作業工程が「暗黙のルール」で行われており、現場で記録を取るという文化がありませんでした。まずはルールを可視化し、従業員に認知してもらい、それを継続していくことが、本当に大変でした。

—その際に工夫された点などがありますか。

新しいことを受け入れたり覚えることが難しい方が多い現場ですので、伝わりやすい言葉で何度も繰り返し伝えることを心がけました。人数は少ないのですが人によって伝わり方が異なるので、紙に書いて貼っておく、モチベーションが下がらないようスモールステップを踏んで長いスパンで目標を設定するなど、さまざまなアプローチで定着を図りました。

—ISO取得によるメリットはありましたか。

はい、非常に大きなメリットがありました。一番は今まで見えていなかった問題点がはっきりと見えるようになったことです。

実際、最初にISOのルールを適用した際には、不良品が非常に多く出ました。これまで「感覚的に大丈夫」と思っていたことが、すべてダメだったということですね。



何が悪かったのか、どうすれば改善できるかが明確になり、大きな収穫があったと思っています。

結果として品質が向上し、ISOに取り組んで本当に良かったと実感しています。

—ASRの審査はいかがでしたか。

初回の審査に来ていただいた方も、1年後の今年来ていただいた方も、とても丁寧に対応いただき、充実した審査を受けられたと感じています。

まだ1年目ですので、不十分な点も多いかと思いますが、いただいたご指摘も分かりやすく、今後何をすべきか、維持していくためにどうすればよいかといったお話も改めて聞くことができ、とても有意義な時間でした。

—今後の取り組みについて、何かお考えはありますか。

まずは、ルールの定着ですね。定着を目指すために、今は3ヶ月ごとに内部監査をしています。小まめにチェックしないと、出来なくなってしまうことが多いので、繰り返し繰り返しチェックして定着させていきたいと考えています。

そして次の1年は、明確にしたルールを全員が確実に守ることから始めたいと思っています。そうすることで、不良が出たときに「やり方が悪かったのか」「ルール自体に問題があったのか」「人に原因があったのか」が明確になり、改善しやすくなると考えています。

—事業として、今後目指していききたい方向性がありますか。

私たちの仕事は、技術の継承が難しいと言われており、同業他社でも高齢の職人から若手へのスライドがうまくいかないケースが増えています。

弊社も同様の課題を抱えていますが、ISOを取り入れることで作業手順を可視化し、技術をしっかりと次世代へ引き継げる体制を作りたいと考えています。

また、長年培ってきた横の繋がりを活かし、今後は材料調達から完成まで一元管理ができ、透明性の高い製造プロセスを公開し、お客様から幅広く信頼を得られるメーカーとして成長していきたいと思っています。



—最後に、会社のPRをお願いします。

今、転造加工ができる会社はどんどん減ってきています。図面上は同じ製品でも、それを実際に再現できる企業がなくなってしまう——そんなことが起きかねません。そういった際には、ぜひ弊社にご相談ください。一般的に市場でよく見かけるねじ、ローレット、特殊ネジ等どんなねじでも加工いたします。また、加工可能サイズもM1.4～M80と幅広く対応しています。1つからの小ロットや朝にこられて「その場で加工してほしい」「夕方までに欲しい」といった短納期でのご依頼をいただくこともありますが、できる限りご要望にお応えいたします。

今後NC転造盤の導入を検討しており、試作品対応にも力を入れていく予定です。これにより、より精度の高い製品開発と迅速な試作が可能となり、お客様の多様なニーズにお応えしていく方針です。高品質な加工技術と柔軟な対応力を武器に、お客様の信頼を獲得し続ける企業を目指して邁進してまいります。



ISOを初めて一年、「ようやく立ち上がったばかりです」とおっしゃる中に真摯に取り組まれている姿勢がうかがえました。確かな技術でどんなオーダーでも対応するという自信に魅力を感じているお客様も多いことと思います。今後のご発展をお祈りいたします。

当コーナーでは、弊社の登録企業様のISO活動や事業をご紹介します。事業への思いや取り組みなどについて、PRしてみたい企業様は、是非、下記宛にご連絡ください。  
ASR通信 事務局 E-mail: otoiawase@armsr.co.jp

# ISO9001 規格要求事項の勘違い

## Vol.3

### 1. はじめに

組織がISO 9001の要求事項を正しく理解できていないため、プロセスを効果的に運用できていない事例が中小企業に多く見受けられます。このため、特に理解不足している要求事項について、その要求事項の意図を明確にし、これに関する管理技術を明示することでISO 9001の要求事項の理解を深めることを目的としたシリーズの第3回です。よくある勘違いと正しい理解を解説します。

### 2. 7.1.5 監視及び測定のための資源

**勘違い** 7.1.5.1は、監視機器と測定機器に関する要求事項である。

「7.1.5.1一般」では、「要求事項に対する製品及びサービスの適合を検証するために監視又は測定を用いる場合、組織は、結果が妥当で信頼できるものであることを確実にするために必要な資源を明確にし、提供しなければならない」と規定しており、機器という用語は用いていません。なぜならば、五官（目、口、鼻、耳、皮膚）を用いて外観検査・確認も行う場合があるからです。このため、資源という用語を用いています。

### 3. 7.2 力量

**勘違い** 力量とは知識を持っていることである。

力量の定義は、「意図した結果を達成するために知識及び技能を適用する能力」であるので、知識だけでなく技能も対象になります。

- 力量を次のように決めていますとします。
- ◎：指導ができる
  - ：一人で作業ができる
  - △：指導を受けながら作業ができる

ここで示されている定義は、技能について評価していますが、知識に関しては不明確です。したがって、例えば表1・1に示すような基準を決めると良いでしょう。

| 役割      | 必要な知識                                                        | 必要な技能                                             |
|---------|--------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| はんだ付け作業 | ・作業標準書<br>・はんだの特性<br>・はんだごての種類<br>・製品仕様<br>・図面の理解など          | ・製品特性に応じた<br>はんだ付けレベル<br>・はんだ付けの良否判断<br>・はんだ付けの指導 |
| 検査員     | ・検査手順書<br>・検査方式<br>・リンプリング<br>・測定機器の使用法<br>・製品仕様<br>・図面の理解など | ・製品特性に応じた<br>測定技術レベル<br>・検査結果の良否判断<br>・検査指導       |

表1・1 力量の例

現実的には、表1・2に示す知識・技能マップを作成することが効果的です。これは、組織における各人の知識・技能の状態を目で見える形に視覚化することで、長期的・短期的な知識・技能の計画的な育成を支援することができます。

一般的には、知識項目・技能項目を縦軸に、人を横軸にとってマトリックスを作成し、各セルに現在の能力・技能レベルを記載するものが多いです。

| 知識・技能項目 |         | 作業者名 |    |    |       |
|---------|---------|------|----|----|-------|
|         |         | ○○   | △△ | □□ | ..... |
| A工程     | A1:組立作業 | 2    | 3  | 3  |       |
|         |         | 1    | 2  | 3  |       |
|         | A2:検査作業 | 1    | 1  | 2  |       |
|         |         | 1    | 1  | 2  |       |

注) 上段:知識レベル、下段:技能レベル

表1・2 知識・技能マップの例

### 4. 7.3 認識

**勘違い** 要員は、品質方針に関する認識がなければならない。

「7.3 認識」では、「品質方針に関して認識を持つことを確実にしなければならない」と規定しており、要員が品質方針に関する認識をもたなければならないとは規定されていません。認識を持つことを確実にするためには、認識を持つような仕組みを構築する必要があります。仕組みとして、例えば、年度事業計画策定時での説明会、課内会議などで認識を持たせることが可能になります。

## 5. 7.5.2 作成及び更新

**勘違い** 規程は定期的にレビューしなければならない。

「7.5.2 作成及び更新」では、「c) 適切性及び妥当性に関する、適切なレビュー及び承認」と規定しており、どのような時期にレビューしなければならないとは規定されていません。したがって、レビューする時期は組織が決めればよいです。一般的には、定期的なレビューを3年ごとに行うか、改定時にレビューを行う場合があります。レビューでは、表1・3に示す業務機能展開などのツールを用いて改訂すれば効果的にできます。

| 基本機能 | 1次機能 | 2次機能  | 単位作業    |
|------|------|-------|---------|
| 業務目的 | 業務1  | 業務1.1 | 業務1.1.1 |
|      |      |       | 業務1.1.2 |
|      |      | 業務1.2 | 業務1.2.1 |
|      |      |       | 業務1.2.2 |
|      | 業務2  | 業務2.1 | 業務2.1.1 |
|      |      |       | 業務2.1.2 |
|      |      |       | 業務2.1.3 |

表1・3 業務機能展開の構造

**勘違い** 承認では、印鑑やサインが必要である。

承認とは、文書や記録の記載事項を認める行為であるので、必ずしも印鑑やサインは必要ではありません。口頭で承認することもあり得ます。したがって、組織の手順に基づいて実施するとよいです。

## 6. 7.5.3 文書化した情報の管理

**勘違い** 保管と保存は同じことである。

保管とは、文書や記録を紛失しないように管理することであり、保存とは、そのままの状態に保っておくことです。このため、保存期間をどれだけするかを決めて、保存期間が過ぎた場合に、不要と判断したものを廃棄することになります。したがって、

保管 (storage) ⇒ 保存 (preservation)

⇒ 廃棄 (disposition)

という活動になります。

**勘違い** 意図しない改変には、記録の改ざん行為も含まれる。

意図しないとは、人為的エラーのことであり、作業ミスなどが該当します。一方、記録の改ざん行為は、意図したものです。

なお、作業ミスとは、①標準作業が確立していること、②作業標準通り行えば、目的通りの成果が得られ、しかも作業に伴う人的・物的損傷が生じないこと、③普通の状態であれば、標準通り作業をすることは大多数の人にとって簡単であることを満足している作業において、散発的に発生する人の記憶・知覚・判断・動作上の標準作業からの逸脱のことをいいます。

## 7. 8.1 運用の計画及び管理

**勘違い** 計画のアウトプットは、QC工程表だけである。

計画とは運用の計画のことであり、例えば、設計開発プロセス、購買プロセス、製造プロセスに関する計画のことです。したがって、これらの計画のアウトプットには、例えば次のようなものがあります。

- 設計開発プロセス：設計開発計画書
- 購買プロセス：購買計画書
- 製造プロセス：QC工程表、生産計画書、設備保全計画書 等

「規格要求事項の勘違い」は次回が最終回です。

福丸 典芳 氏

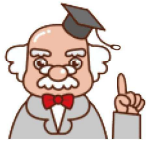
(有)福丸マネジメントテクノ代表取締役

著者紹介

日本規格協会品質マネジメントシステム国内委員会の委員を務め、ISO 9001の規格作成にも携わる。

コンサルティング業務、講演会・研修会の実施、書籍の執筆など多方面で活躍。

近著に「ISO統合マネジメントシステムの構築と内部監査の実践」がある。



## 企業と環境法令

### 1. はじめに

企業と環境法令の関係は、現代社会においてますます重要性を増しており、経営戦略や社会的責任（CSR）、さらには投資家や消費者からの信頼に直結する課題となっています。環境法令は、企業活動が自然環境に与える影響を抑制し、持続可能な発展を実現するための法的枠組みを提供します。しかし、単に法令を守るだけでは十分ではなく、企業はその枠組みを経営に統合し、戦略的に活用することが求められます。

### 2. 環境法令の概要と企業活動への影響

環境法令は、大気汚染防止法、水質汚濁防止法、廃棄物処理法、土壌汚染対策法など多岐にわたり、企業の経済活動が環境に与える悪影響を最小化することを目的としています。これらの規制は、以下のような形で企業活動に影響を与えます。

#### (1) 規制遵守の義務

企業は排出ガスや排水の管理、化学物質の取り扱い、廃棄物処理に関して厳格な基準を守る必要があります。違反は行政処分や罰則に直結するため、リスク管理として不可欠です。

#### (2) 環境影響評価（EIA）

新規事業や大規模プロジェクトを実施する際には、環境への影響を事前に予測し、適切な対策を立てることが義務付けられています。EIAは、企業が地域社会や生態系との共生を図るための必須手段です。

#### (3) 排出権取引制度や炭素クレジット

地球温暖化対策として、温室効果ガス排出の削減義務や市場取引制度が導入されています。企業は環境対応と同時に経済的合理性を追求することが求められます。

### 3. 法令変更への対応とISO14001の役割

環境法令は固定的なものではなく、社会情勢や国際的な合意（パリ協定やSDGs）に応じて頻繁に改正されます。したがって企業は、最新の規制動向を継続的に把握し、自社の活動に与える影響を速やかに評価・反映させる体制を整えなければなりません。

ISO14001では「順守義務の特定」「定期的な見直し」「評価と改善」が要求事項として盛り込まれ

ており、法令変更への対応を組織的な仕組みとして根付かせることが可能です。これにより、属人的かつ場当たりの対応に陥るリスクを軽減し、安定したコンプライアンス体制を維持できます。

### 4. 法令遵守の戦略的意義

環境法令遵守は、単に罰則回避のためではなく、以下の戦略的効果を持ちます。

- リスク管理：違反による社会的批判やブランド価値の低下を防ぐ。
- コスト削減：省エネルギーや廃棄物削減による効率化。
- CSRとブランド価値：消費者や地域社会からの信頼を高める。
- ESG投資への対応：投資家に対するアピールとなり資金調達を有利にする。

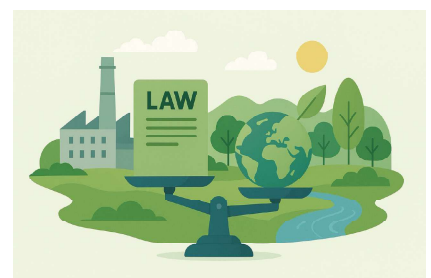
このように、法令遵守は企業にとって持続可能性と競争力を同時に強化する手段となり得ます。

### 5. おわりに

企業と環境法令の関係は、単なる法的義務を超えた経営課題であり、リスク回避と同時に競争力や企業価値の向上に直結しています。特に法令は絶えず改正されるため、企業には変化に適応する柔軟性が不可欠です。

ISO14001は、法令変更を含む順守義務への対応を仕組み化し、環境戦略を経営に統合する強力なツールとなります。今後の企業は、環境法令の遵守を基盤としつつ、ISO14001を活用してクリーンテクノロジーの導入やサプライチェーン全体での環境配慮を推進し、持続可能な社会の実現に貢献していくことが求められるでしょう。

ASRでは、毎月環境法令の改正情報をホームページに掲載しておりますのでぜひ参考にしてみてください。



エイエスアール主催

## 企業様向け ISO 関連教育サービス

決まった時間に講師が解説するセミナーと、自由な時間に自分のペースで学べる学習動画（e-ラーニング）が、自分のスタイルに合わせて選べます。

### ▶ ISO関連セミナー（2025年10月～2025年12月）

#### 内部監査員養成セミナー ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001

1日/2日

ISO 規格要求事項の解釈、内部監査員に必要な基礎知識と技能を実践的な講義と演習で学習します。

集合セミナー

1日

|    |     |            |    |     |            |
|----|-----|------------|----|-----|------------|
| 品質 | 東京  | 10月 21日(火) | 環境 | 東京  | 10月 22日(水) |
|    | 名古屋 | 11月 11日(火) |    | 名古屋 | 11月 12日(水) |
|    | 大阪  | 12月 17日(水) |    | 大阪  | 12月 18日(木) |
|    |     | 10月 15日(水) |    |     | 11月 7日(金)  |
|    |     | 11月 6日(木)  |    |     | 11月 20日(木) |
|    |     | 12月 9日(火)  |    |     | 10月 28日(火) |
|    |     | 10月 16日(木) | 情報 | 東京  | 11月 13日(木) |
|    |     | 11月 19日(水) |    |     | 12月 11日(木) |
|    |     | 12月 10日(水) |    |     |            |

2日

品質 東京 11月 25日(火)～11月26日(水)

URL [https://www.armsr.co.jp/asr\\_pc/internalaudit/internalaudit.html](https://www.armsr.co.jp/asr_pc/internalaudit/internalaudit.html)

#### ISO 入門セミナー

半日

ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001

「ISO とは何か」から始まり、マネジメントシステム規格がどのようなものかといった、ISO の基礎を解説するセミナーです。

WEBセミナー

|    |            |            |
|----|------------|------------|
| 品質 | 12月 22日(月) | 時間         |
| 環境 | 11月 10日(月) | 9:00～12:00 |
| 情報 | 12月 23日(火) |            |

URL <https://www.armsr.co.jp/mss11.html>

#### 規格ポイント解説セミナー

半日

ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001

規格要求事項のポイントについて、半日で解説するセミナーです。規格要求事項を勉強したいがあまり時間が取れない」方にお勧めします。

WEBセミナー

|    |            |             |
|----|------------|-------------|
| 品質 | 12月 22日(月) | 時間          |
| 環境 | 11月 10日(月) | 13:30～16:30 |
| 情報 | 12月 23日(火) |             |

URL <https://www.armsr.co.jp/mss20.html>

#### 環境側面解説セミナー

1日

ISO14001 においてシステム構築の基本となる環境側面について、抽出から決定までのプロセス等をわかりやすく解説するセミナーです。

集合セミナー

日程 2026年 1月 29日(木)

URL <https://www.armsr.co.jp/mss12.html>

#### 規格要求事項の解説セミナー

ISO9001・ISO14001

1日

規格要求事項について、各箇条の意図や要求事項を満たすためにすべきことなどを解説。要求事項について理解を深めるためのセミナーです。

集合セミナー

|     |                                                                                     |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 品質  | 10月 27日(月)・12月 2日(火)                                                                |
| 環境  | 11月 17日(月)                                                                          |
| URL | <a href="https://www.armsr.co.jp/mss21.html">https://www.armsr.co.jp/mss21.html</a> |

#### 講師派遣型セミナーのご案内

講師が組織様にお伺いし、セミナーを行う「講師派遣型（出張）セミナー」も承ります。

「決まっている日程や場所では参加しにくい」という組織様におすすめのセミナーです。

詳細につきましてはホームページにてご確認ください。  
[https://www.armsr.co.jp/asr\\_pc/onsite/](https://www.armsr.co.jp/asr_pc/onsite/)

### ▶ ISO 学習動画（e-ラーニング）

新規講座が順次開講し、約30本のコンテンツをご用意しています。新入社員むけの社員教育プログラムもどうぞご利用ください。

| 講座名                                                                                                                            | 視聴時間  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| ISO関連講座（下記以外にも20以上の講座がございます）                                                                                                   |       |
| ISO入門セミナー ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001・ISO45001                                                                               | 1.5時間 |
| 規格ポイント解説セミナー ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001・ISO45001                                                                            | 2.5時間 |
| 内部監査員 養成講座 ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001・ISO45001（※修了証発行）                                                                      | 6時間   |
| <b>POINT!</b> ISMS活動内容の文書化セミナー                                                                                                 | 1.5時間 |
| 情報セキュリティマニュアルに記載される規格本文の解説と、それに関する質問が用意されています。各要求事項について、対応する回答例や関連する規定・記録の事例を参考にしながら、自社に合った内容を記入していくことで、ISMSマニュアルを作成することができます。 |       |

URL <https://www.armsr.co.jp/websemi.html>

※視聴時間は、おおよその時間です。規格によって若干異なります

セミナーや学習動画の詳細と最新情報は、ASRトップページのオレンジ色のバナー（下図）かURLからご確認ください。  
※お申込みはホームページのWEBフォームからお願いいたします。

<https://www.armsr.co.jp/ac/>

セミナー・学習動画(e-ラーニング)に関するお問い合わせはこちら  
TEL:03-3666-8624 E-mail:seminar@armsr.co.jp



いつでもどこでも、パソコンやスマートフォンで、空いてる時間に、  
自分のペースで、何度でも繰り返し学習できます。

QMS/EMS  
ISMS/OH&SMS  
**ISO 入門セミナー**

ISOを初めて学ぶ方に、「ISOとは何か？」から規格要求事項について概要を解説します。



QMS/EMS  
ISMS/OH&SMS  
**規格ポイント解説セミナー**

規格要求事項の用語や意味について、ポイントを短時間で解説します。



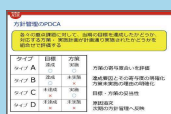
QMS/EMS  
ISMS/OH&SMS  
**内部監査員養成講座**

内部監査員として必要な基礎知識、規格要求事項の概要と監査技術を学べます。



修了証発行

ピーター・F・ドラッカーの  
**マネジメント理論とISO9001**  
ISO9001の要求事項と関連するドラッカーのマネジメント理論を解説します。



QMS/EMS/ISMS/OH&SMS  
**ISO 基礎講座プログラムセット**

- ・ISO入門セミナー
- ・規格ポイント解説セミナー
- ・内部監査員養成講座

上記がセットになったパッケージです。

※EMSセットには「環境側面解説セミナー」が付きます。

お申込みURL <https://www.armsr.co.jp/websemi.html>

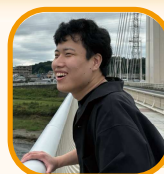
ASR 学習動画

検索



## エイエスアールの スタッフ紹介

### 趣味から学ぶ仕事のあり方



氏 名：近藤 成海（こんどう なるみ）  
所 属：認証部  
趣 味：ライブに行くこと・旅行・水泳

いつもお世話になっております。認証部の近藤と申します。

私は判定事務局を担当しており、報告書の回収や判定依頼、登録証の発行などを主な業務としています。

今回は少しだけ、私の趣味についてご紹介させていただきます。私の趣味の一つに、好きなアイドルを応援する、いわゆる「推し活」があります。推し活の中でよく耳にする言葉に「推しは推せるときに推せ」というものがあります。私はこの言葉を、「目の前のことに本気で向き合い、先延ばしにしない」という意味で受け止めています。

以前、気になっていたアイドルグループのライブにいつか行こうと思っていたのですが、なかなかタイミングが合わず、結局行けたのは解散ライブだけでした。

「もっと早く行っておけばよかった」と、強く後悔した経験があります。何事も、後になればなるほど、過去に対する後悔は大きくなるものと痛感しました。だからこそ、好きなものや関心のあることには本気で向き合い、決断を先延ばしにせず、後悔のない選択をすることを自分のモットーとしています。

この姿勢は、仕事においても同じだと感じています。本気で向き合うのはもちろん、業務を後回しにすればするほど負担は大きくなり、やがて後悔につながります。この経験を通じて、日々の業務への意識もより一層高まりました。判定事務局では、日々多くの報告書や登録証を取り扱っています。1件1件のお客様に対して本気で向き合い、推し進めて参ります。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

発行元：エイエスアール株式会社

本 社：〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-10-15  
TEL 03-3666-8757(代) 03-3666-0478(営業部)

名古屋支社：〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4-2-5  
TEL 052-533-1822

名古屋第二支社：〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-3-26  
TEL 052-211-7102

大阪支社：〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町4-5-16



品質・環境・労働安全衛生 情報セキュリティ



★次回発行は2025年12月の予定です。(年4回発行)  
皆様からのご意見、ご感想をお待ちしております。

E-mail [otoiawase@armsr.co.jp](mailto:otoiawase@armsr.co.jp)

ASR ISO

検索